



平成29年 入職式の集合写真です。皆様よろしくお願いたします。



No.35 (平成29年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院
西多摩療育支援センター
後援会

連絡先

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521 (代表)
東京小児療育病院
Eメール torh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実に
積極的に取り組む障害児者と
その家族を支援します

- 1頁 理事長就任のご挨拶
- 2頁 理事長退任のご挨拶
- 3頁 日野原重明先生に学ぶ
- 4頁 東京小児療育病院だより
- 5頁 西多摩だより
- 6頁 センター祭
- 7頁 法人表彰式
- 8頁 みどり祭・バザー案内
- 後援会だより・オルフェの会
- ご寄付者名簿

理事長就任にあたり



社会福祉法人鶴風会
理事長 松尾 賢二

この度、平成二十九年六月十八日の理事会で中里厚理事長の後任として、若輩ながら社会福祉法人鶴風会（東京小児療育病院、西多摩療育支援センター）の理事長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。高齢化社会の中、我が国の社会福祉が大きな変革期を迎えているこの時世に、理事長の職に就くにあたりその重責を痛感しております。

昭和三十九年に創立された当施設は、東邦大学の前身である帝国女子医学専門学校の先生方の有志によって、女医として社会のために何か世の中に役立つことをしたいとの思いから、当時一般にあまり理解されなかつた肢体不自由児、重症心身障害児の支援とその病態の原因を究明するために設立されました。設立資金の少ない状況からの開設の苦労は大変なものでした。昭和三十八年に国有地（八四〇〇坪）の払い下げ

を受けましたが、施設の建設には資金が不足していたため引き受ける建設会社がなく、当時の池田首相と夫人の仲介とご理解により、建設費はある時払いとの条件で増岡組に建てて戴いたとのことです。何とか開設したもののその経営は予想以上の赤字が続き、その上契約を承諾して頂いていた増岡組の社長が亡くなり、契約書類がなく今までの経緯がわからなくなり支払いも滞っていたため、建築費の未払いで訴訟を起こされました。一時は理事長の辞任、一部理事の辞任の要求、強制執行などの窮地に追い込まれましたが、最終的に都知事の力添えで取得した土地の一部（三〇〇〇坪）を売却し、未払い金を完済しこの問題を解決しました。理想と現実の差の大きさにとても苦労され乗り越えて来られた先輩方の努力と信念に敬意を表します。

昭和三十九年四月には秩父宮勢津子妃殿下ご来臨のもとに東京小児療育病院の開院式を挙行了しました。入院収容数八十八床でスタートした東京小児療育病院は、入院希望者が多く同年十一月に一〇八床に増床しても待機利用者待ちが解消されない状態でした。しかし重症の利用者様が多く、多数の職員を必要としたため引き続き財政は赤字が続いていました。毎年赤字は各種賛助寄附金によって補い、昭和四十二年には一六八床に増床し、重症児の助成金も得られ経営面は少し改善してきました。昭和四十四年七月に常陸宮華子妃殿下、

昭和五十年五月には皇太子殿下、同妃殿下（現天皇皇后両陛下）がご視察にご来臨しております。また昭和四十九年十一月には三笠宮寛仁殿下をお迎えして東京小児療育病院創立一〇周年記念チャリティーパーティーを挙げております。その後鶴風会の活動が評価され、昭和六十二年三月に倉島攝子理事長が医療功労賞中央表彰を授与されました。このように、帝国女子医学専門学校が先生方が目指した思いは社会に認められる様になりました。その後もさらに事業を拡張し、平成十六年三月には、専門施設のなかつた地元を要請により、あきる野市に東京都より土地を借りて西多摩療育支援センターを開設し、上代継診療所、小規模身体障害者療護施設「菜」、重症心身障害児通所施設「もえぎ」を開園しております。

開設から半世紀、その志と理念を受け継いだ先生方やスタッフの方たちは不断の努力で立ち止まることなく歩み続け、障害児・者の社会復帰とご家族の負担軽減に大きく貢献しております。

当施設のスタッフと先生方のモチベーションは高く、三年毎に世界の福祉の先進国であるスウェーデン、フィンランドに定期的に海外研修に行き、新しい知識を得て施設に還元するようしております。また学会活動も活発で、発表、原著も数多く、年間に著書・論文は二十、講演・学会発表は三十二を数え、平成二十七年九月には、一橋大学一橋講堂で開催された第四十一回日本重症心身障害者学会学術集会を椎木俊秀院長が会長となり主催し大きな成果をあげています。しかし、経済的

には相変わらず余裕がなく、皆様の善意による寄付とバザーやチャリティーコンサートなどの活動を行い、何とか運営しております。現状のままで半世紀を経過し老朽化した施設は、現在の建築基準を満たさず耐震上の不安もあり、また寿命を迎えた医療機器も時代遅れとなり、最新の機器に入れ替える時期にきていますが、その為の資金が足りない状況が続いております。

日本人は世界一勤勉であると評価され、日本の精神論で戦後の復興も世界に脅威をもつて見られていました。それは日本型資本主義であり現在の社会には馴染まず、複雑で細かい規則にがんじがらめにされ働き方が非効率で、物事を決めるのに会議が多くそして長く、それらの理由により生産性の低下が認められます。これからは個性やクリエイティビティを養い、働く人ひとりひとりが生産性、即ち仕事の効率化をするよう意識しなければなりません。生産性を高めなにかぎり、施設を安定的に維持することも改善させることも難しいと思われまます。天台宗最澄の教えに、「一隅を照らす」という言葉がありますが、即ちひとりひとりが自ら進んで努力し、与えられた持ち場で役割を誠実に務めるようにならないければなりません。施設内部の改革として、効率良く働きやすい組織の編成に見直し、職員の意識改革などによる医療事故の軽減や仕事の効率の向上を図り、老朽化した施設の建て替えについては、現在の敷地に建てるのか、代替地に建てるのかなど、中長期計画を立てそれに沿って具体的に検討を行いつつ運営して行かなくてはなりません。

まだまだ発展途上の組織ではありますが、利用者の方々や、温かく見守りご協力して下さるご家族の方々、そして崇高な志と熱い思いを持って仕事をされる方々、こういった沢山の素晴らしい出会い、縁に支えられて今日があることを心から感謝しております。また、日ごろ多大なご協力を戴いている東邦大学同窓会である東邦会各位、東邦大学理事長炭山嘉伸先生、東邦大学学長山崎純一先生始め各学部長および教職員の皆様方のご支援に厚く御礼申し上げます。

これからも地域社会福祉のさらなる発展、幅広く奥深い貢献を続け、先輩たちの崇高な志の火を消さないよう全力を尽くす所存でありますので、今後引き続き皆様方のなご一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

理事長退任のご挨拶

社会福祉法人鶴風会前理事長

中里 厚

平成二十二年六月に理事長を拝命してから七年間務めさせて頂き、二十九年六月に退任いたしました。私の前任の五島瑳智子理事長も当施設に七年間お勤め戴きました。五島先生の時代に長年解決出来なかった諸問題が一段落したこと、今後は電子カルテの整備や病院全体の建て替えなどの大きな問題がありますがこれらの事業は新しい執行部に継続して頂きたいと思っております。

幸い、松尾新理事長は五島先生の時代より仕事を一緒にやってきましたので経過をよく御存じで、一丁関係にも造詣が深く新しい感覚で今後の対応には適任と思いい後継者としてお願いしました。

新理事長も述べております様に、当施設は創設以来多難な時代が長く続きましたが、運営に理解をしめす多くの方々や関係官庁、法人の役員などが献身的かつ懸命な努力で何とか今まで存続させて頂きました。今後皆様方には今更にと変わらず御支援を頂ければ幸いです。私も全面リタイアではなく法人理事の一員として今後も協力して参ります。

当施設の重要な事業として、毎年バザーとチャリティーコンサートを行い施設運営に供与しております。物の豊富な時代ですが、バザー商品を集めたり値段を付けたら当日の手配など大変手間がかかります。

チャリティーコンサートはギリシャ神話の音楽の神オルフェウスにちなみ「オルフェの会」と称して長年継続しております。

特に五島瑳智子先生は音楽や芸術に造詣が深く毎年いろいろ楽しい企画を考え一流歌手や二期会メンバーらの歌をはじめ、ヴァイオリンやピアノの演奏、アルペン音楽など様々な企画をして参りました。

今後この会を中心に皆様方と当施設の親交を深めていきたいと思っております。ご協力頂いております皆様方にはお会いして直接お礼を申し上げなければなりません、書面をかりまして御礼もつしあげます。

今後とも宜しくご協力のほどをお願い申し上げます。

日野原重明先生に学ぶ

社会福祉法人鶴風会後援会長

青木 継絵

日野原重明先生は平成二十九年七月十八日一〇五歳の天寿を全うされご自宅にて逝去されました。誰からも愛された先生のお人柄は、私ども医療従事者のみならずあらゆる人々へ人間としての『生きる鏡』そのものでした。

先生は第二次世界大戦体験や日航機よど号ハイジャック事件の時乗客のひとりとして死の覚悟をされましたが、奇蹟的に無事生還できたことから、今後の自分の命を『人のため、世のために捧ぐ』と決心したと、よくお話をされていました。先生が亡くなられた際、新聞やテレビは真っ先に、その事を大きく報道しました。先生の生涯は、正に、人のため、世のためにあつたのです。大変なご努力・ご尽力の賜であり素晴らしいことでした。

先生は循環器内科専門医でしたが、その他の医学・医療の多くの分野にも幅広い知識を持たれ高い見識を示されました。私自身医学教育において、米国医師ウィリアム・オスラーのお話「医学の研鑽を積むことは当然の事、医療の面におけるアート・心の面の大切さ」を教えて頂き先生には大変感謝しています。今から四十数年以上も前のことでした。先生は「POSSR」※を臨床医学や看護教育に導入されたことは画期的なことでした。

先生は絶えず新しいものを吸収され、研究と創意工夫をされあらゆることに情熱を傾け

られました。地下鉄サリン事件の対応、ホスピスの導入、新老人クラブの創設、またジョン万次郎記念館をポストン郊外に設立されたことなど多くの社会貢献をされました。

先生は、小学生への「いのちの授業」、著書「十歳のあなたに」他、子ども向けのミュージカル「葉っぱのフレディ」の中で、一貫して、いのちの大切さ、感謝すること、等を分かり易く説いて来られました。子ども頃から「人のために役立つことの大切さ」を教えられ、お友達と仲良くして強く清く正しく生きることを示されました。命の尊さは、自分と同じように他の人の命の重さも教えられました。

人のため、世のために何を為すかは難しいことです。考えることが出来ても実行に移すことは多少の勇気が必要です。先生は、自分も周りの人に支えられて生きていることに気が感謝することが大切と話され、感謝の心を持って人のため世のために貢献できるという言葉でいます。何かのときに気持を表すことも大切であり社会貢献につながります。

命の大切さを学ぶ場として当法人鶴風会の各施設は願ってもない場所です。日野原先生は、愛の証として障害児者に対してご理解を示されて来られました。

先生に感謝しつつご冥福をお祈りします。

※POSSR: Problem Oriented System Recordの略。問題解決型記録(SOAPにて記録すること)。



東京小児療育病院だより

東京小児療育病院院長

椎木 俊秀

本年四月より当院は、旧肢体不自由児施設の東京小児療育病院と旧重症心身障害児施設のみどり愛育園を統合し、東京小児療育病院として再スタートを切りました。統合後も事業内容に大きな変更はありません。引き続きご支援の程よろしくお願ひします。

今年度は入所、通所利用者の方の生活の質のさらなる向上に向けて取り組みを強化したいと考えています。当院は重症度、医療度が非常に高いのが特徴ですが、そのような中でも生活の質を高め、豊かな生活を送っていただくという難問に知恵を絞り、工夫を凝らしながら挑戦したいと考えています。

地域支援関係ではグループホームの検討プロジェクトを平成二十七年に立ち上げました。これは親御さんたちの最大の懸念と言ってもいい「親亡き後、この子はどつなるのか」という問題に真剣に取り組むためです。施設入所は東京都のような都市部では極めて困難です。東京都だけでも入所待機者は六〇〇名を越えますが、毎年入所できる人は二十名にも満たない状況です。終の棲家として施設を一つの選択肢として残しながら、重症心身障害の方が入れるグループホームという新たな選択肢を追加する意義は極めて大きいものがあります。実現の道のは非常に厳しいものがありますが、実現の可能性を追求して行き

ます。できるだけ在宅で生活できるように、今行っている短期入所、通所、訪問看護・リハなどのサービスの充実も図って行きます。

NICU、一般病棟から退院できない方の在宅移行支援にも着手したいと思っております。当院は療育の経験が長く、在宅支援関係の事業も多く行っているため、まさに適任と思っております。

診療面ではオーダーリングシステムが昨年の十二月から稼働を始めましたが、来年度には電子カルテを全面導入する予定です。

組織運営、人材育成の強化も重視して取り組んでいる課題です。理念に基づき基本指針運営方針を決め、その具体化として中長期計画などを作成して事業を進めています。指導層の研修システムも少しずつ整ってきています。特に人材育成は施設の発展にとって必要不可欠という意識で取り組んでいきます。

数年前より障害者雇用も重視して取り組み始めています。私たちが掲げている障害者支援という理念に反し障害者雇用が進んでいない現状を反省して、平成二十七年にプロジェクトチームを立ち上げて検討した結果、昨年度、二名の方を雇用することができました。今後最適、採用していきたいと考えています。皆さん仕事がりも一生懸命で実際に役に立っていただいています。他の職員の大きな励みにもなっています。

今後利用者支援を第一に考え、それを支えるための経営、人材を車の両輪にして、障害者支援という本質においてはふれることなく、実際においては柔軟に仕なやかに振舞いながら奮闘し続けたいと願っています。

西多摩だより

西多摩療育支援センター長
鶴岡 広

この度、病院の電子化強化により、診断書などの文書をパソコンで作成、保存することとなった。

福祉関連の書類は、医師意見書、障害証明、年金、手帳など種類及び件数が大変多い。私は、毎月、七〇〇八〇件ほど作成している。特に補装具意見書が八割程度占めている。

これは、障害者総合支援法に基づく補装具費支給制度に利用される。ちなみに補装具とは、障害者等が失われた身体機能を補完または代替するための用具（車椅子・義肢・装具・座位保持装置など）をいう。補装具費の支給を受けるには、支給を申請する時点で身体障害者手帳がある又は障害者総合支援法施行令で定める難病などで、判定等により補装具費の支給が必要な障害状況と認められる必要がある。利用者の負担は、世帯の所得にもよるが原則一割で、残りは公費（国：五〇／一〇〇、都道府県：二五／一〇〇、区市町村：二五／一〇〇）となる。実施機関は、区市町村で、申請は、各行政の障害福祉の窓口となる。

この補装具費意見書を作成するにあたり、補装具処方を記載する。薬と同じように成分（各部品）、調剤方法（作成方法）、量（寸法など）などと、目的・効果を記載する。薬が日進月歩するようにつに機器も進歩しており（チ

タンやカーボン素材、3Dプリンタなど）、新薬と同じように認可しているとは限らない。また、都道府県や区市町村により意見書の書式が各々異なり、作成する物、子供と大人など年齢によっても別になる。書式を間違えれば申請は受け付けて頂けない。少なくとも広域で書式が統一されてくれればな、と思う。今日も老眼鏡をかけパソコンに向かい、カルテの山のため息をつく。

センター祭

センター祭実行委員

天候にも恵まれ青空の下、今年で十四回目を迎えるセンター祭が六月四日（日）に開催されました。

今年のセンター祭のテーマは、①地域住民の方々と交流を図る。②利用者、ご家族の方がお祭りを楽しむ。の二つを掲げ実行委員メンバーを中心に準備を進めてきました。

まず、あきる野市周辺の学校、福祉施設などを中心にイベント、模擬店に参加して下さるところを当たっていきました。福祉施設は、十三もの施設が参加して下さる事になり、その中には「毎年、センター祭に出店する事が楽しみなんですよ」と嬉しいお話を聞くことができました。日々の活動で一生懸命に取り組んで出来た製品が数多く並び、早い時間で売り切れてしまつた施設もあり、大盛況の様子でした。製品が売れたときの利用者さんの

表情がとても素敵な笑顔だったのが印象的です。多くの施設が集まることにより、交流や情報交換はもちろんなこと、出品している作品なども多種多様にて、各施設の特色、特徴がわかり利用者さんにとっても刺激のある場になつていくことが感じられました。

今年のイベントは五つ。まず、利用者さんのご家族が活動されている「元氣太鼓」がトップをかざり力強い太鼓を披露してくださいました。会場が一気に盛り上がり、場を華やかにしてくださいました。次に東海大菅生高校ダンス部の学生さん達による若さあふれるキラのあるダンスパフォーマンス。ノリの良いテンポの音楽に自然と身体が動き出し一緒に踊り出すお客さんも見られました。迫力ある2つのイベントの後は、小休憩。あきる野市のマスコットキャラクター「森っ子サンちゃん」の登場。サンショウウオをモチーフにできた兄妹キャラクターですが、なかなか愛くるしいゆるキャラ。職員有志一同と昨年大流行した恋ダンスを披露。なんとも可愛らしく癒しの一時となりました。ゆるキャラに興味のある方は、「森っ子サンちゃん」を探索してみてください。

午後のスタートは、「Power in da Performance」として東邦大学などのメンバーからなるサークルの方々です。披露していただいたのはジャグリングやダンスパフォーマンスでした。センター祭には初めての参加でしたが、他施設や病院、イベント会場など数多くの場所で活動を披露されているとのことでした。総勢五十名程いらつしやる中、限られた小さなスペースでの披露にて三名での参加

でしたが、とても雰囲気慣れていて小さなお子さんから大人まで存分に楽しませて下さいました。

そして今年もイベントのトリを飾ってくださいましたのが「きららバンド」の皆さんです。昔懐かしい曲からマイブーニーの曲、最近のヒット曲など様々なジャンルの曲を演奏してくださいました。目の前での楽器演奏は、全身に響き渡り迫力満点!! 庄巻のステージでした。

今年も、模擬店の中にも初めて参加して下さるお店があり、某居酒屋チエーン、パン屋さん、コーヒージュップ、足つぼマッサージ店など幅広いジャンルが集まりセンター祭を盛り上げてくださいました。移動プラネタリウムも初めての参加でした。普段なかなかゆっくりと星空を眺めることが難しい車椅子の利用者さんでも体験できる工夫がされており、誰でも癒しの空間を楽しむことができました。予定より多くの上映をして下さいましたが、それでも用意していた整理券があつと言う間になくなってしまつた方々もいました。残念ながら見ることが出来なかつた方々から、ぜひ又きてほしいとの声を聞き相談したところ、半年先まで予約がいっぱいとのことでした。でもぜひ検討していきたいです。

また、キッズアートプロジェクトも初参加のひとつでした。小さなお子さんが中心に楽しめるブースで、たくさん色紙の中から好きな色を選び台紙に貼り付ける工程。真剣な表情で作品を創り上げ、完成したときの笑顔がホッコリ。更に自分の作品がプロジェクトに写し出された瞬間、喜びに満ちた笑顔、



あきる野市イメージキャラクターの森っこサンちゃんがダンスを披露してくれました。

素敵な空間でした。今までで最多の数が参加してくださり、どのブースもとても賑やかで、本当に多くの笑顔を見ることができました。それが何より喜ばしい一時でした。

今年も何事もなく無事にセンター祭が開催できたのも、ボランティアの協力がなければありえません。今年も中学生から一般の方まで多くの人たちが参加してくださいました。東京小児からも毎年たくさん職員さんがセンター祭と一緒に盛り上げてくださいます。ありがとうございます。

皆さんの優しさ、笑顔がたくさん詰まったセンター祭、来年も更に楽しめる様、もっと地域とのコミュニティを拡げて誰もが気楽に参加できるセンター祭が開催できるように日々々の支援、また、求められるセンターづくりを職員一同頑張って取り組んでいきたいと思えます。

ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございます。

平成二十九年年度
鶴風会表彰式

法人事務局
佐藤 俊一

去る平成二十九年六月二十二日(木)に、今年度の法人表彰式を執り行いました。今年度も昨年度に引き続き、施設貢献表彰及び永年勤続表彰がございました。受賞者の方々は、日頃のご尽力に感謝いたします。受賞者の方々に引き続きお力添えを賜ります様お願い申し上げます。

施設貢献表彰

- 西藤 武美 顧問
- 占部 友一 看護師
- 村木 健太郎 生活支援員

永年勤続表彰

- 勤続三十五年
西横 正行 栄養士
- 庄司 洋 調理師

勤続三十年

- 山口 奈津恵 理学療法士
- 松永 文子 理学療法士
- 渡辺 明彦 生活支援員
- 千ヶ崎 孝子 生活支援員

勤続二十五年

- 八代 博子 看護師
- 境 りえ 看護師
- 小原 ひろみ 生活支援員

勤続二十年

- 和田 恵子 医師
- 石原 幾子 作業療法士
- 深澤 保子 看護師
- 阿部 千幸 看護師
- 鈴木 野枝 生活支援員
- 佐藤 健次郎 生活支援員

勤続十五年

- 田村 貴子 医師
- 小松 陽介 作業療法士
- 栗原 佳奈 看護師
- 小泉 浩一 生活支援員
- 太田 雅代 生活支援員

勤続十年

- 山下 修佑 書記
- 上村 裕史 書記
- 石田 隆裕 施設管理
- 松井 秀司 医師
- 星野 洋子 言語聴覚士
- 高橋 真理子 心理
- 岩田 由圭 看護師
- 増田 まゆみ 看護師
- 柴原 由美子 看護師
- 中村 洋平 生活支援員
- 尾形 晶子 生活支援員
- 齋藤 利広 生活支援員
- 武田 雅 生活支援員
- 高橋 美穂 生活支援員
- 堀口 恒平 生活支援員
- 伊藤 祥子 生活支援員
- 森田 美里 生活支援員



会食時の様子。永年勤続者より挨拶。



松尾新理事長、中里前理事長と共に記念撮影

社会福祉法人 鶴風会

第27回 みどりまつり

第41回 チャリティバザー



同時開催のお知らせ



年に一度の大イベント！

今年もみどりまつりとバザーを開催することとなりました。



模擬店やお楽しみ企画を多数ご用意して
皆様のご来場をお待ちしております。

日 時：平成29年10月22日（日） 10時開始、14時終了予定
※バザー用の整理券は、当日朝7時より配布します。
※天候などにより、開始時間が30分程度前後する場合があります。



会 場：東京小児療育病院
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園四丁目10番地の1

お願い：チャリティバザーでは、物品のご寄贈をお願いしています。
10月中旬まで受け付けておりますので、是非ご協力ください。
なお、物品のご寄贈にあたっては、以下の点にご留意いただければ幸いです。

- ・リサイクル商品として販売できる状態のもの
(未使用であっても、汚損のあるものはご遠慮ください)
- ・物品をご郵送される際、着払いをご遠慮ください。
- ・電化製品は、保証の関係でお断りしています。
- ・ご寄贈後の物品は原則お返しできません。
ご不明な点は、事前にお電話にてお問い合わせください。



お問い合わせ 社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院
バザー担当：佐藤俊一、堀内

電話：042-561-2521

社会福祉法人 鶴風会
後援会だより

ケアは「医療は人を
選ばず」の下に

東邦大学名誉教授
元東邦大学医学部看護学科長
村井 貞子

一九六〇年に北海道を中心としてポリオの大流行があり、全国で五六〇〇人を超す患者となりました。ポリオは免疫がない小児を襲い、患者の三分の一が死亡、三分の一が後遺症を残し、三分の一のみが回復するという重症の病気でした。当時は疫病、ジフテリアなど「小児急性感染症」と言われるほど、子供が感染症の標的になっており、子供が好きであつた私は、感染症やその後遺症をどうにかできないものかと思っていました。折しも日本においても、「リハビリテーション」という言葉が、肢体不自由児や傷痍軍人等の医療の中で地位を得てきた時代で、一九六三年（大学四年の時）の五月祭ではこれを取り上げ、学科ではポリオの後遺症を踏まえた展示をしました。翌年四月に東邦大学医学部衛生公衆衛生学教室の助手となり、同じ時に東京小児療育病院がポリオの後遺症による肢体不自由児の施設として開設されたことを知り、何か不思議なめぐりあわせを感じました。私自身は、金子義徳教授の下で、感染症の疫学を基にワクチン論やレンサ球菌の流行の解析

等々の基礎的な仕事をしてきましたが、医学部二年生の公衆衛生学の授業では、学生にケアの立場を学ばせるといふ教授の方針から、病院の見学もさせていただきました。大学からのバスの往路で、初めて見た「親子の鶴」のシンボルが今でも目に残っています。そして、患者一人一人に合わせたケアに感動したものです。現在では、ポリオは日本からはなくなり、利用者の疾病像も変わっていますが、障害を持つ方へのケアの在り方は変わるものではないでしょう。

一九九三年に医療短期大学に移籍し、五島瑛智子先生の下で看護教育に携わりましたが、先生のご指導で「療育実習」として宿泊による実習が始まり、学生たちはスタッフの方々はもとより、利用者の方々から多くの学びを頂き、医療の基本的な在り方を学ばせて頂きました。カリキュラムは変わりましたが、今もケアを学ぶ学生にとって貴重な実習であります。

「女性として、医師として、そして母親でなくてはできない事業」とのお考えから、大先輩の先生方の並々ならぬご努力で設立された施設と伺っております。予測された事実として増加する高齢者に話題が集中する今、小児に関しては必ずしも予想されたことではなく起こる障害が多く、パラリンピックならずとも、もっと世の関心があつてしかるべきと感じています。亡き五島先生が「医療は人を選ばず、医療に国境はない」と述べられたそのままを歩んでおられる東京小児療育病院を陰ながら応援している一人です。

社会福祉法人 鶴風会
チャリティコンサート ～オルフェの会～

本年も12月3日(日)に、当法人後援会主催の歳末チャリティコンサート、『オルフェの会』を開催することとなりました。コンサートをお楽しみいただきながら、当法人の活動へのご理解を深めていただきますようお願いいたします。なお、コンサートで得られた収益金の一部は、当法人へのご寄付としてお預かりいたします。本年も多くの皆様より温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 日時：平成29年12月3日(日) 12時開演
- 会場：グランドプリンスホテル新高輪
- 会費：2万円 お食事は、フレンチのコースを予定しております。
- 出演：ヴォーチェ・アミーチ・デル・マーレ
クルーズ船のコンサート他各方面にて活躍中のユニット。二期会の実力派テノール高野二郎を中心に、個性豊かな美しい歌姫2名とフルーティスト、そして、ピアニストは昨年好評をいただいた金井信で構成いたしました。
《メンバー》高野二郎(テノール) 清水菜穂子(ソプラノ)
江口二美(ソプラノ) 古川はるな(フルート) 金井 信(ピアノ)
- 内容：日本歌曲から世界の名曲、そして本格的なオペラまで皆様に親しみのある曲を予定しています。クラシックコンサートの歌手と楽器演奏とのコラボレーションは珍しく、皆様に楽しんでいただける企画といたしました。どうぞご期待下さい。

お申込み
お問合せ
社会福祉法人鶴風会 法人事務局 担当：佐藤俊一
住所：〒208-0011東京都武蔵村山市学園四丁目10番地の1
電話：042-561-2521 FAX：042-566-3753

社会福祉法人鶴風会へ

「ご寄付者」芳名

平成29年1月～平成29年6月
291名 (五十音順・敬称略)

青木 悦・青木 継稔・青木万智子
青木 美澄・青木りづ子・朝川 孝幸
足高 毅・東 恵子・安達 久夫
足立茂代子・足立 嘉子・阿部 俊彰
阿部 正和・阿部美代子・安部由利男
安部 良浩・新井 恒子・新井 雅之
安土 達夫・安藤 博文・飯国紀一郎
飯国 弥生・飯国洋一郎・五十嵐良典
石川 元子・石北 寿子・石田 勇
石塚 博子・五日市 敬・伊藤 圭子
伊藤 正俊・伊藤 元博・稲垣 登稔
稲松 信雄・井上 博士・猪俣賢一郎
宇賀 直樹・牛込 伸行・内 孝文
内田 幸子・宇野久仁子・宇野 拓
梅田 正法・梅田みほ子・梅田 嘉明
海野 俊雄・海老根東雄・近江 訓子
大木 晋輔・大久保陽一郎・大高 究
大竹 喬二・大塚 慶子・大塚 周二
大西 清・大山 みつ・岡田 研吉
緒方 孝行・岡松 眞二・小川 昭子
小川 雄三・小原 明・小原 桂子

鹿島田忠史・柏崎 操・柁原 宏久
春日井正典・桂川 修一・加藤香代子
加藤 聡彦・加藤 葉子・金澤 昭
金森 勝士・金子クニ子・金子 晴生
金杉 靖子・歌野原祐子・鎌田 直子
釜范 登志・上岡 謙夫・上岡 正子
神谷 英治・神山 悠子・軽部 昌子
河田 兼光・菅野 寿子・菅野 訓子
菊地 由美・鬼頭 秀明・木村 鈴代
木村 文祥・木村 裕・榎田 明美
久保 初美・久保 博・倉根 理一
黒木 貴夫・黒瀬 嘉幸・桑原 利章
月花 亮・向山 徳子・越島 明子
越島謙次郎・越島康太郎・越島 園美
越島 知子・小波 達郎・後藤加寿美
小西フミ子・許斐 貞子・小林 寅喆
小林 一雄・小林純二郎・小林登喜子
小峰八ツヨ・斉藤 眞一・斎藤 登
斎藤 則善・斎藤 雅彦・斎藤 学
齋藤 洋子・先山 隆司・佐々木裕美
佐多 由紀・佐藤 明子・佐藤 和子
佐藤 清子・佐藤 重雄・佐藤 艶子
佐藤 麗子・澤井 寛人・塩野 則次
志鳥眞理子・篠田志美子・柴 孝也
柴 昌徳・柴田仁太郎・渋谷 昌良
島田 敏雄・島田 長人・嶋田 寛子
島津和貴男・島野 光・清水 一輝

首藤さち子・白石 芳子・新谷 義克
菅野 庄一・洲鎌久美子・杉 薫
杉本 寛子・杉山 卓哉・杉山 尚子
鈴木力ツ子・鈴木志賀子・鈴木 信介
鈴木 徳也・鈴木 秀明・鈴木 文晴
炭山 朋子・炭山 嘉伸・清宮 祥子
芹澤 滋幹・高月 誠・高野 恭子
高橋 和俊・高橋 清子・高橋 孝彦
高橋比路美・武居 正郎・竹本 照子
多胡 博雄・多田 博是・田中 政信
谷野 徹・田部 秀山・田宮三鶴代
月本 一郎・月本 伸子・津久田康成
辻本公美子・堤 俊一郎・坪井久美子
苗村 みえ・中川 俊郎・中里恵美子
中里 良・長澤 貞継・中島 末美
中谷 尚登・中西 隆・中村 映子
中村志津子・中村 安秀・中村 豊
中村 淑子・並木 温・西井 華子
西篠 公勝・西宮 常代・根本 暁
野上和加博・野口 隆敏・野澤 和弘
野澤卜ヨ子・能戸 保光・野中 杏栄
野中 博子・野村 直子・萩原 淳子
荻原 泰・橋口 玲子・橋本 卓史
蜂矢 正彦・濱中知恵子・早川 浩市
林 佳子・早原 千鶴・原田 孝
原田千鶴子・原田裕美子・土方 淳
平川 舜・平田 徹・平野敬八郎

福原紀美子・藤田ひろ子・星 北斗
星田 宏・星野 恭子・星野 光雄
細澤 裕子・細野久美子・細野 幸多
堀 浩司・堀之内八千代・前畑 安宏
馬嶋 順子・増田登志子・松島 英乃
松橋 京子・松橋 求・松原 龍弘
松本 英亜・丸山 和子・美島 利通
水落 笙子・水野久美子・水野 孝子
三宅 三・宮崎 元伸・宮本 佳子
武者 芳朗・望月 祐一・村井 貞子
村川 公一・村川世津子・茂手木三男
森 克彦・森澤 豊・森田 康裕
守田 洋・矢野 春雄・山口 美穂
山崎 公子・山下 育子・山下 香澄
山田耕一郎・山田 輝代・山中みよ子
山村 憲・山本 温子・横田 卓史
横山 祐作・吉澤 熙・吉田 友英
吉田 広重・吉田 正己・吉永 克己
吉見 梓・和田 俊洋・渡辺 享子
渡邊 弘恵・渡辺 善則
(株)一富士
(株)イクセル・サーピス
(株)エスアールエル 八王子営業所
立川酸素(株)
東京小児療育病院 父母の会
野澤醫院
NPOわらへ

